

## 企業規模が貸出金利に与える影響：東日本大震災直後の企業個票データによる 実証分析

東日本大震災時には、東北地方の沿岸部などで、地元の企業が大きな損害を受け、地元の金融機関も大きな人的・物的損害を受けた。例えば、金融機関の資金繰りが逼迫したり、金融機関の資本が棄損したことにより、金融機能を十分に果たせない可能性があった。一方で、震災による損害を受けた企業は、負債比率が高いといった企業側の要因で、企業が十分に資金を借りられなかったり、高い貸出金利で借りる可能性もあった。

本稿では、東日本大震災後に、小規模企業が大企業と比べて、貸出条件が悪かった可能性を調査する。そこで、2012年度から2015年度の東日本大震災被災地の企業のデータを使い、貸出金利に何が影響を与えたのかを調査する。

その結果、小規模な借り手は、観察できる要因以上にリスクが高く、借り手の質のような脱落変数 (omitted variable) があるため、小企業向け貸出の金利は、大企業向け貸出の金利よりも高いことを示す。